

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方針	学校関係者評価	学校関係者評価			
確かな学力	B	①組織的な取組で学力向上を図る。 ②授業で「わかる、できる」という自己有用感を感じさせる。 ③基礎的知識、技能を習得させ、それを活用する力を養う。 ④家庭との連携により、家庭学習の充実を図る。	①授業改善のために校内研修を充実させ、授業力を向上させる。 ※改善プラン訪問も活用する。 ②授業スタンダードの定着及び質の向上を図る。 ③「授業づくり部会」を中心とした計画的・組織的な実践を行う。 ④家庭訪問や広報活動の充実により、家庭と連携して家庭学習の質と量を高める。 ⑤学期ごとにPDCAで振り返りを全教職員で行う。	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり 子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など) 学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	○研究主任及び「授業づくり部会」主導により組織的な授業改善を図る。(校内研、アンケート、改善策) ○アンケート結果や校内研の実施後は、課題克服のための実践の共有を図る。 ①日々の実践と市教委や事務所の訪問における研修をつなげていく。 ②自己評価及び他者評価により、授業スタンダードを定着させ、さらに質の向上を図る。 ①「家庭学習の手引」「学ぶ眼」を活用し、主体的な学びの促進を図る。 ②学活時に家庭学習の振り返りの場を設定する。 ③肯定的評価により意欲を高める指導を行う。	①「授業スタンダード」自己評価における肯定的評価100% ②授業評価アンケート各項目平均3.5以上 ③学期末に次学期学力向上の取組を確認する。 ①県版学力調査において、1年生は県平均+5P以上、2年生は県平均10P以上。 ②授業者による公開授業及び振り返りの実施率100パーセント(改善訪問活用) ①市意識実態調査(7月・11月)「学習時間」1時間以上の生徒→65%(19名)以上 ②学校評価アンケート(11月)「毎日家で宿題や予習をしている」生徒割合79%(23名)以上	①自己評価における肯定的評価100%②すべての項目で3.6を超えている。平均数値は3.71③学期末、学期始めに全教職員で「学力向上」についてその後の取組について共有した。 ①県版学力調査における達成目標数値や取組内容については常に共有し、講師招聘における「スタンダードの質の向上」も図った。②5教科においては改善訪問を活用し、改善につなげた。 ①「学習時間」1時間以上の生徒79%(23名)30分未満の生徒10%(3名) ②「毎日家で予習や復習をしている」生徒割合82%(24名)	①「主体的な学び」を最大のテーマに授業づくり部会を中心にPDCAを図る。②アンケート項目や実施時期及び活用方法を研究主任及び授業づくり部会を中心に行う。 ③学力向上のための取組と振り返りの視点の明確化。 ①「授業スタンダード」の質の向上を図るための効果的研修を実施。 ②「学校運営協議会」との協働による取組の充実でさらなる改善を図る。さらにたくさんの訪問者に授業公開し、評価していただくことでチームを組んで授業改善を図っていく。 ①「家庭生活7か条」を中心とした「物部の生活習慣向上計画」を作成し、保・小・中の保護者はもとより、多くの地域の方々とも共有し、地域全体で取り組む。②授業で、家庭で学習した内容を活用し、評価する取組のサイクルを確立する。放課後学習の充実	①1年生2年生においては、授業スタンダードの取組の成果ができてきているように思います。生徒、教師とも授業への心構えや目的を明確にして、更に質の向上を目指して取り組んでみたいと思います。 ②生徒一人一人の学力向上には、家庭学習での予習、復習を充実させ習慣づけることが必要だと思います。PTAの学級懇談会や3者面談等で家庭学習の手引きの活用について話し合ったらどうでしょうか。家庭学習のさせ方が分からないという親もいます。	A		
			豊かな心	A	①福祉教育、体験学習を基盤とした「道徳実践力」の向上を図る。 ②生徒会を中心とした行事の充実を図り、生徒の主体性を育む。 ③よりよい人間関係の構築する。	①地域での体験活動の効果的な取組みやさらなる工夫による実施を図る。 ②話し合い活動の充実や発表の場を効果的に仕組むことにより主体性を育む。 ③お互いが認め合い、褒め合う環境を設定する。	①体験活動や地域貢献活動を、生徒が主体的に行えるよう、環境づくりや取組を行い、学びを生活や将来につなげていく。 ②特別活動や道徳の授業においても、グループでの学び合いや発表の場を効果的に仕組み、主体性を育む。 ③集会や全校行事、各学年での活動等で、生徒が相互評価できる(話し合い・認め合い・褒め合い)場面を多く設定する。また、掲示物や通信等で取り組んだ内容や学んだ内容を効果的に振り返れるようする。 ④生徒が活躍する一みん評価する一さらに意欲的に取り組む これをサイクル化。 ⑤研究発表会において生徒が主体的にプレゼンテーションできるように支援する。	①学校評価アンケート「学校が楽しい」肯定的評価90%以上 ②道徳アンケート(4月・10月)「人間関係・規範意識」肯定的評価90%以上。「道徳の時間」肯定的評価80%以上。 ③Q-Uアンケート(6月・11月)「学校生活満足群」75%以上。「学校生活不満足群」4%以内 ⑤研究発表会での生徒自己満足度100%	①「学校が楽しい」肯定的評価90%(23名) ②道徳アンケート「人間関係・規範意識」肯定的評価98.9%。「道徳の時間」肯定的評価93.1% ③Q-Uアンケート「学校生活満足群」66%。「学校生活不満足群」14%。 ⑤研究発表会での自己満足度100%。	①②地域との協働で、学校行事を組み立てることで、生徒の自尊感情や道徳性は高いに高まり定着してきた。今年度は、講師を招聘しての「道徳性」及び「自尊感情」を高めるための研修を3度実施したが、実践を共有し、保護者・地域・学校が協働してさらなる「豊かな心」を育てたい。 ③「学校生活不満足」の生徒に対する関わり方について、分析一効果的ななかかわりを、「仲間づくり部会」を中心に明らかにし、改善を図る。	①運動会を始め、いろんな行事において学年を超えた協力、協働ができていると思います。また発表会など人前でも生徒全員しっかりと発表や説明ができおり今後の自信にもなっていくのではないのでしょうか。 ②学校評価アンケート、道徳アンケート共に肯定的な評価が多いようですが、学校生活不満足群の生徒が4名います。生徒との話の時間を設けるなど、家族ともしっかりと連携を取りながら原因の究明と早めの手だてをお願いします。	A
					健やかな体	A	①運動習慣の定着、体力向上の意識化を図る。 ②体育的行事や体育の授業を通じて、主体的に運動を行う意欲を高める。 ③部活動の充実を図り、体力面や精神面の向上を図る。	①基本的な生活リズムの定着が運動能力や体力の向上、健康な体作りにつながることを生徒、保護者にも啓発していく。 ②発達段階に応じ、適切な評価を行い、体力、運動能力を高める体育的行事や体育の授業を工夫する。	①「学ぶ眼」や「保健だより」を定期的に配布する。その際、内容の説明や依頼事項を生徒や保護者に行う。また、校内でも掲示することで意識を高める。 ②体育の授業での授業研究の実施や運動会、マラソン大会で生徒が主体的に取り組める指導・支援を行い、満足感を与える。 ③顧問や部活動キャプテン会の実施により生徒が主体的に部活動を運営できる場を意図的に設定し、評価していく。また、外部コーチとの連携や近隣の学校との合同練習も行い、意欲の向上を図る。 ④運動会の取組を保護者、地域と協働しながら、生徒が主体となる行事にする。	①生活調査アンケート(6時間以上の睡眠)90%以上 ②道徳アンケート「生活習慣」定着72%以上。 ③市アンケート調査(7月・11月)テレビ・スマホ・ゲームの時間→2時間未満の割合70%以上 ④学校評価アンケート「部活動が充実している」肯定的評価が86%以上。 ⑤授業評価アンケート「体育の授業が楽しい」肯定的評価88%以上。 ⑥運動会の自己満足度100%	①「6時間以上の睡眠」100% ②「生活習慣の定着」67.8% ③「テレビ・スマホ・ゲームの時間」2時間未満の割合59% ④「部活動が充実している」79% ⑤「体育の授業が楽しい」肯定的評価96% ⑥「運動会の自己満足度」93%	①家庭・学校が連携し、「効果的な睡眠」という質についても意識させる。 ②③学校・家庭・地域が連携し、「物部の生活習慣改善計画」の効果的な活用を図る。 ③テレビやスマホについてのルールづくりもかねて「香美市ネット宣言」の啓発・普及に努める。 ④部活動については再編し、子どもが主体的に活動できる部活動をめざす。 ⑤「物部地域学校協働本部」との協働をさらに推進し、子どもが地域と方々と輝く運動会を作り上げる。
保護者地域との連携	S	①地域貢献活動をキャリア教育につなぎ、自己理解や解決能力を養う。 ②コミュニティ・スクール導入に向けた「地域と共に歩む学校づくり」の推進。 ③保小中の連携による保護者、地域を巻き込んだ教育実践を推進する。	①付けるべき力や目標を明確にした行事を仕組む。 ②推進委員会及び地域支援本部の役割の明確化及び地域参画行事の充実を図る。 ③保小中一貫教育に向けた研究及び取組を推進する。	①生徒が郷土を愛し、自分を愛することができるよう体験的な学びを充実していく。そのために、自ら考え、自ら行動できるよう、意識付けや課題を与える。 ②年3回の地域支援本部の開催で情報公開及び学校行事への参画の推進を図る。また、年数回の推進委員会の開催でコミュニティ・スクール導入に向けた体制づくりを進める。 ③保小中P合同講演会の実施や、保小中における発達に応じた家庭生活での心得や、英語教育の推進を図っていく。			①キャリアアンケート(12月)キャリアプランニング能力3.3以上、郷土愛3.5、自尊感情3.2以上。 ②道徳参観日及び人権参観日の保護者出席率が平均70%以上。 ③保護者アンケート「学校は情報提供に努めているか」肯定的評価76%以上。 ④学校支援地域本部3回実施。 ⑤発達段階に応じた「家庭生活の心得」の作成及び配布。	①キャリアアンケート ○キャリアプランニング能力 3.1 ○郷土愛 3.6 ○自尊感情 3.2 ②出席率80%以上 ③「情報提供に努めている」肯定的評価90% ④大柵保・小・中学校支援地域本部が随分活性化した。 ○めざす姿 ○部会 ⑤作成中	①「地域とともにある学校づくり」のさらなる促進・充実を図る。「大柵保・小・中学校運営協議会」「物部地域学校協働本部(物部つ子育てる会)」「ボランティア組織」この3つの組織を中心とした持続可能なコミュニティ・スクールを作り上げる。 ②保護者のみでなく、地域の方々も参加(参画)できる参観日を企画する。 ③スクールメール及び学級通信の活用を図る。 ④「協働」をテーマに、役員の方々を中心とした地域に根差した組織を展開していく。⑤配布・啓発していく。	①いろんな行事や取組で保護者、地域の連携はとれていると思います。特に運動会での保小中の連携は以前より良くなってきていると思います。物部つこ商店では小学校とも一緒にやったらもっと良くなるとの住民の声もありました。 ②コミュニティ・スクールや、ボランティア活動などは、他校からも評価が高いようで、このまま継続していけば子どもたちの人間関係形成や、郷土愛の育成にもなると思います。	S	
		特別支援教育	A	①特別支援学級に在籍する生徒へ効果的な支援を行う。 ②通常学級に在籍する生徒への効果的な手立てや支援を行う。 ③SC・SSWとの連携を図る。	①校内支援委員会の計画的な実施及び支援シートの作成及び活用。 ②特別支援をテーマにした校内研修を実施し、教職員の資質・指導力の向上を図る。 ③SC・SSWと連携し、支援体制を確立する。	①年3回の物部の支援会の実施により、支援シートの効果的な活用方法を考える。 ②講師招聘により特別支援教育をテーマにした校内研修を実施し、ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりについての研究をすすめる。 ③SC・SSWの訪問日に細やかな支援の方策の打合せを行い、教育相談や生徒への対応方策を具体的に検討し、職員でベクトルを合わせた実践をする。	①欠席日数が、1学期末5日以上、2学期末10日以上、3学期末15日以上の生徒数0 ②支援が必要な生徒に必要な教育相談を実施する。 ③特別支援教育をテーマにした校内研修を年3回実施する。(組織的なTTの実施策の共有) ④特別支援学級生徒アンケート(11月)「学校が楽しい」肯定的評価100%。	①2学期末で、欠席日数が10日以上(10日)の生徒1名(10日)。3日連続欠席者0名。 ②教育相談1名実施し、改善に生かすための実践を要する生徒の記録簿を活用。 ③校内研修を3回実施し、実践の共有と振り返りを行った。④「学校が楽しい」肯定的評価100%。社会性等大きな成長が見られる。	①SC・SSWとの連携で、支援が必要な生徒理解を早めに行う。不登校をつくらない学校運営・学級経営を行う。 ②必要なら早めに教育相談を実施する。実施後は速やかに改善策及び実践の共有を図る。 ③校内支援会・校内ケース会の効果的な実施を通じ、特別な支援を要する生徒が輝く学校づくりを行う。 ④講師招聘研修を学期に一度実施し、教職員の力量を高め、生徒の自尊感情を高めていく。	①学校が楽しいとの肯定的評価100%は教職員の支援や資質の成果だと思います。さらなる向上に向けて取り組んでください。	A	